



平成27年度を振り返って

中央検査部技師長 室谷 里見

平成 27 年度を振り返ってみれば、毎年思うことですが、「アッ」という間にもう 1 年経ったのか！という思いです。今年度は、検査部長が交代され、血液内科部長でもある高橋徹先生が、新しい検査部長に就任され、臨床現場と検査部門の架け橋としての役割も担って頂いております。病理部門では、田中慎介先生が病理診断科部長として着任されました。



また、臨床検査技師も新人 2 名が加わり戦力 UP を図ることができました。一方では、病院全体で取り組んできた改革である「病棟・外来検査時間前倒し」で 2 月 1 日から病棟がスタートし、さらに 3 月 23 日から外来採血時間の前倒しにより、病院業務全体の流れがより効率化されることとなります。この改革で検査部が担う役目は大変重要であり、検査結果の正確・迅速報告はこれまで以上に重要なカギになると考えております。さらに、平成 28 年度の診療報酬改定で、当検査部が 2007 年度に認定を受けた ISO15189 認定施設に対して検体管理加算(Ⅱ)に 40 点が加算されることになりました。このような変革に適正に対応し高度な検査精度を担保し患者サービスと診療支援に貢献できるようにより一層強固な検査体制を構築していくために検査部一同は、今後も努力してまいります。最後に、今年 1 月に実施した「臨床へのアンケート」調査では、多くの医師の皆さまから、忌憚のないご意見を頂き大変ありがとうございました。今後の検査業務運営に反映させて頂きたいと思っております。

中毒性顆粒って何ですか??

血液検査室 中尾 崇志

検査室では、表題のような問い合わせを受けることがよくあります。中毒性顆粒とは、好中球の細胞質に存在する顆粒異常の 1 つです。末梢血のギムザ染色標本で、光学顕微鏡下に好塩基性のやや大型な顆粒として観察されます。中毒性顆粒がある細胞は、成熟に十分な時間をかけずに末梢に動員されたもので、しばしば重症感染症や G-CSF 製剤投与に際して観察されます。薬物・アルコールなどの何らかの中毒の時にみられる訳ではありません。



細胞質内の無数の紫青色顆粒が、中毒性顆粒です。



2ヶ月で30単位(¥238,434円)の 血小板製剤が廃棄されました



予約製剤です！！

キャンセルは使用当日 AM10時まで

返品⇒廃棄…

20～24℃ 振
盪保存

照射濃厚血小板-LR 10単位
¥79,478円

血小板製剤は有効期限が採血後4日間と短く、納品された時点で基本的には当日期限か翌日期限です。そのため返品されると転用できる可能性は低く、廃棄となります。

また血小板製剤は予約製剤で、必要分のみ発注をしています。必ず使用する場合のみオーダーして下さい。オーダーは、使用予定日前日の15時までをお願いします。緊急時は別途対応致しますので、輸血検査室までご連絡下さい。血小板製剤をキャンセルする場合は、使用当日の10時までに必ず輸血検査室まで電話連絡を入れて下さい。

血液製剤は、善意の献血から得られる限りのあるもので、決して無駄にしてはならないものです。輸血に関わる一人一人のちょっとした心がけで無駄を減らすことができますので、ご協力をお願いします。

過去3年間の血小板製剤廃棄理由

廃棄理由	廃棄本数
患者死亡により未使用	40単位
データ改善により未使用	50単位
不適切な製剤管理(病棟)	10単位
使用適応外のため中止	10単位

血液センター定時便

	午前	午後
発注期限	10:00	14:00
納品予定時間	11:00～	15:00～

輸血検査室(内線502)

病理解剖時の必要書類について

- ① 病理解剖に関する遺族への説明と承諾書
- ② 病理解剖実施伺
- ③ 病理解剖依頼書
- ④ 剖検依頼書
- ⑤ 死亡診断書のコピー

病理解剖の際には①～⑤の書類をご用意ください。

①は病棟で2部コピーしてください。一部はご家族にお渡しし、もう一部は診療録管理室でスキャンするためカルテに挟んでおいてください。

詳細は、院内マニュアル「病理解剖マニュアル」をご参照ください。

病理検査室(内線509)

編集委員：安永、中尾、野口、水間、永井、山本彩

